

国内初 カーテンレールトレーラー導入



▲▼カーテンの開閉の様子



ヨーロッパでは普及

積載増え、天井低い場所でも積み込み可

東洋メビウス

東洋製罐(せいかん)グループ(東京都)が製造する包装容器の輸送を主な事業とする、グループ会社の東洋メビウス(株)(東京都)は9月から、カーテンレールトレーラーを導入し、稼働させている。トレーラーとしてカーテンレール車が導入されるのは、国内では初めて。

カーテンレール車はヨーロッパで普及

カーテンレール車は、日本というウィング車であるが荷台の側面がカーテン状となっており、ヨーロッパで普及している。逆にヨーロッパではウィング車は普及していない。カーテンレール車は、側面をカーテン状にすることで車両を軽量化できる。荷台部分をアルミコンテナからシートにすることで、約500〜600キロ積載量が増える。また荷室の容積も多く確保できている。

及していない。カーテンレール車は、側面をカーテン状にすることで車両を軽量化できる。

側面のカーテンは手動で開閉可能で、前からも後ろからも開くことができる。女性でも扱える。反対側も開けることができ、両サイドからのフォークリフト荷役にも対応している。

天井の低い場所でも積み込みがしやすいのも特徴。横方向にカーテンを移動させる構造のため、狭い場所でも荷積み・荷下ろしが可能だ。

ウィング車の場合、カーテンレール車は油圧機構や電源を使わないため、万一の故障もない。オイル漏れの心配もなく、天井からの水漏れの心配もない。環境負荷も抑制できる。

ジャパントラックショーで展示

昨年5月、横浜で行われたジャパントラックショーでセノプロトラックス(株)



カーテンレール車

良県)がカーテンレールトレーラーを展示。

東洋メビウスの横澤孝二事業本部長は

「カーテンレールの話は以前から聞いていたが、操作性にも優れていた。またま

仙台のトレーラーがそろそろ代替えの時期に来ていたので、思い切って入れてみよう」と、セノプロからの購入に動いたという。

また、横澤氏はカーテンレールトレーラーのメリットについて、「仙台で動かしているのは、長距離は走らず、5kmぐらいを走る車。そうすると、オルタネーター(発電機)が発電して、バッテリーにためるといったところまでいかない。

だから、従来のウィング車ですぐにバッテリーがダメになっていた。

ウイングを開けて、積んで閉めて、5kmぐらい走って、また開けて、これを十数回も繰り返すということになるので、負担が大きい。また、仙台の工場はウイングが全開できないような構造になっている。そのため、8割ぐらい開けて積み込みをしているのだが、これは油圧機構に凄

い。負担をかける。これが改善されるのは大きい」と説明する。今後、カーテンレールトレーラーが国内で広まるのが注目される。